



## 「豊橋・学校いのちの日」に込められた思いを忘れずに

～かけがえのない、たった一つの命～

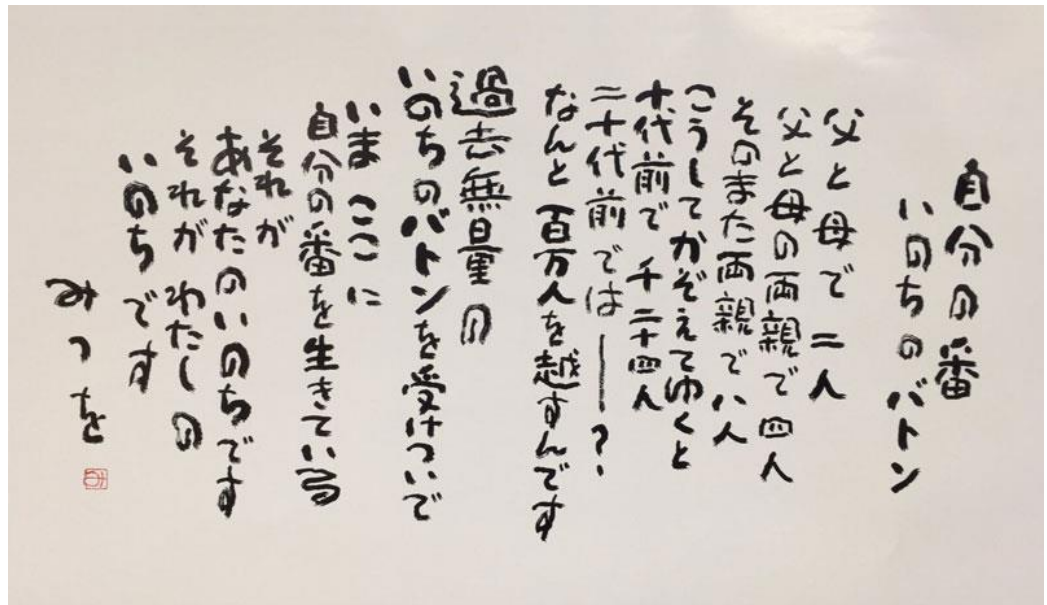
平成22年、野外活動中の事故で市内中学校1年生の尊い命が失われました。今年で10年を迎えます。本当ならば20歳を過ぎ、自分のやりたいことを見つけ、人生を歩んでいるはずだったのに…。決して忘れてはいけません。

このような悲しいできごとが二度と起こらないようにという思いから、豊橋市では命日である6月18日を毎年「豊橋・学校いのちの日」とし、「命」について考える日としています。

私たちの身近にも、病気や交通事故、事件などで命を失われる方がいます。世界へ目を向けてみても、自然災害や戦争、食糧危機などで命を落とされる方がいます。特に今年は、コロナウイルス感染症により、1,000人近くの方々が亡くなっています。きっとまだまだ生きていたかったことでしょう。

みなさんは、次の詩を知っていますか？ 読んだことのある人もいるでしょう。

この詩を読むと、自分の命がたくさんの人たちとつながっていて、自分だけのものではないといつも気づかれます。あなたの命は、たくさんの人たちの命を受け継いでいるのです。たくさんの人たちの命をバトンにして、今あなたがいます。



そして、あなたの命は次の命につながり、未来の命へと受け継がれます。一人一人の命はあなただけのものではない尊いものですね。「自分の命、大事にしていますか?」「友達や家族の命、大事にしていますか?」

みんな命を輝かせて生きてほしい。生きていればよいことがある。楽しいことが待っている。みんな「自分の番」を一生懸命生きて、「いのちのバトン」をつなごうよ。

かけがえのない、世の中にたった一つの命 なんだから…。

